

## 福井大学学術協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（2月）

留学先：カセサート大学

氏名：土田郁子

2月は28日しか無いのと、色々イベントがあったため過ぎ去るのがとても早かったです。

中旬に1年生のPBLがありましたので、12日にアサンプション大学へ行きタイ人学生と1年生のプレゼンを見て、18日に高等教育局とマヒドン大学でThailand Education 4.0の概要と実現に向けての大学の役割について話を聞いてきました。今までタイの経済を学んだとしても変遷や全体の仕組みを勉強していたので、ある一つのポリシーを細かく学ぶ初めての機会だったかもしれません。一昨年に似たような内容の話を聞いているはずでも、予備知識とリスニング力が及ばずあまり内容を理解できなかった前回に比べて、今回は少しのタイについての知識と雀の涙ほど向上したリスニング力のおかげで色々学ぶことができました。タイ政府の全歳出の中でも一番大きな額を割り当てられているのは教育省なのですが、この予算はほとんど初等教育などに使われているため高等教育局にまで十分な予算が割り当てられないのが現状です。しかし、タイが目指している経済成長のゴール(Thailand 4.0, Sustainable development)のためにはヒューマンキャピタルが必須で、人々に専門知識や能力を身に付けさせる高等教育の数や質の向上はますます必要になってくるはずです。また、東南アジアの中心に位置するタイは隣国から学生を招き入れるのに最適の土地です。東南アジアをリードしていく存在になるためには近隣諸国への積極的アプローチが必要で、招き入れるだけではなくタイ人学生も近隣諸国へ送り、文化や言語の習得が将来的に望まれます。高等教育局は、こういった近隣諸国へ行くタイ人学生や近隣諸国からタイに来る学生に奨学金を出していましたが、予算不足のため、現在はタイから近隣国へ行く学生の奨学金を廃止しています。大学のビジネス化が進んでいますが、まだまだタイの高等教育機関は予算が必要なのだと感じました。タイはまだまだ発展途上で、インフラや道路の工事もあちこちで行っていますし、初等教育機関の数や質に地域格差がでていたりするのではないかと思います。長期的にみてやるが多いため、高等教育に対する予算の割り当てをこれ以上増やすことは難しいと感じますが、これからどうなっていくか楽しみです。

それぞれPBL活動への参加も有意義で面白かったのですが、これを機に訪れた他の東南アジアへ留学している同期たちと小幡先生とご飯を食べに行ったり観光をしたりしたこともとても楽しかったです。タイに居る間は行こうと思わなかった観光地が、外から人が来ることによって一緒に行く機会を得て、意外と良い所だったと気づくことが何度かありました。その間、毎度恒例の留学の意義や学部のカリキュラムへの文句、苦労話などたくさん話しました。この話を通して、また帰国してから学生のうちにやりたい

ことが出てきました。中々やりたいことと就活や卒業研究などやらなければならないことの調整に目処が立たず、最終的には何故学生のうちに就活をしなければならないのか不満を持ち始めるようになった今日この頃です。

11月頃にマネジメントゲームのイベントに参加しましたが、3月にもこのイベントがあります。参加する学生と、運営の方やタイで働いている参加者の方数人で食事会へ行ってきました。日本人街にある焼き肉屋で、この時人生で初めてユッケやレバ刺しなどの生肉を食べました。久しぶりの焼肉と初めての生肉に感動しながら、参加する経営者の方々や他の学生と話をしてきました。経営者の方は、タイで自分の会社を持っているためベンチャー志向が強い印象で、自信の人生計画をちゃんと立てて事業を遂行していると感じました。そういった人に就活の相談をすると、自分の無計画さや勇気のなさ、無欲さに思慮の浅さなど諸々に気付くことになり、途中で惨めすぎて話ができなくなってしまいました。他の学生も、留学生生活をタイ人の友達と交流を深めたりタイ語の勉強に励んだり、はたまた日本人学生会の運営をしたりと自ら有意義なものにしている様子を聞き、自分の留学生生活の無意味さに失望しました。タイに1年留学しているにも関わらず、タイ語を勉強している訳でもなく喋れる訳でもなく、だからといって英語が上手くなった訳でもなく経済の知識も中途半端に習得しただけのこの期間は正直無駄で、なにも1年居る必要は無かったと感じています。食事会の時点で結構へこんだので、イベント当日が今から憂鬱です。

実は25日から、日本人学生とルームシェアを始めました。部屋は6階から7階へ移り、虫の心配は激減しました。ルームメイトの部屋代を安く済ませたいという誘いから始まったのですが、もう少し早くから始めてれば良かったと思うほど快適です。今まで他人と住むことに懸念があり、できれば一人部屋がいいと思ってきたのですが、意外と大丈夫でした。なんでも初めてみるものだと感じました。部屋代は半分になりましたし、全く人と触れ合う機会がない後期には一人部屋のときよりマシな生活になったと思います。ただ、英語は全く喋らない日々には変わらないので今どうしようかと対策を考えています。



↑ワット・アルン



↑同期と小幡先生と食事